

《薬局サーベイランスコメント》

『第7週（2月12日～18日）のインフルエンザの患者数は前週よりも大幅に減少、流行は漸く一段落しつつあり』

2018年2月20日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第7週（2月12日～18日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は1,085,765と前週の値（1,659,426）よりも大幅に減少し、これで2週間連続しての減少となりました（図1）。また、週明けの月曜日（2018年2月19日）の推定患者数は227,013と前週の休日明けであった火曜日の値を下回っており、インフルエンザの患者数は今後更に減少していくものと予想されます。

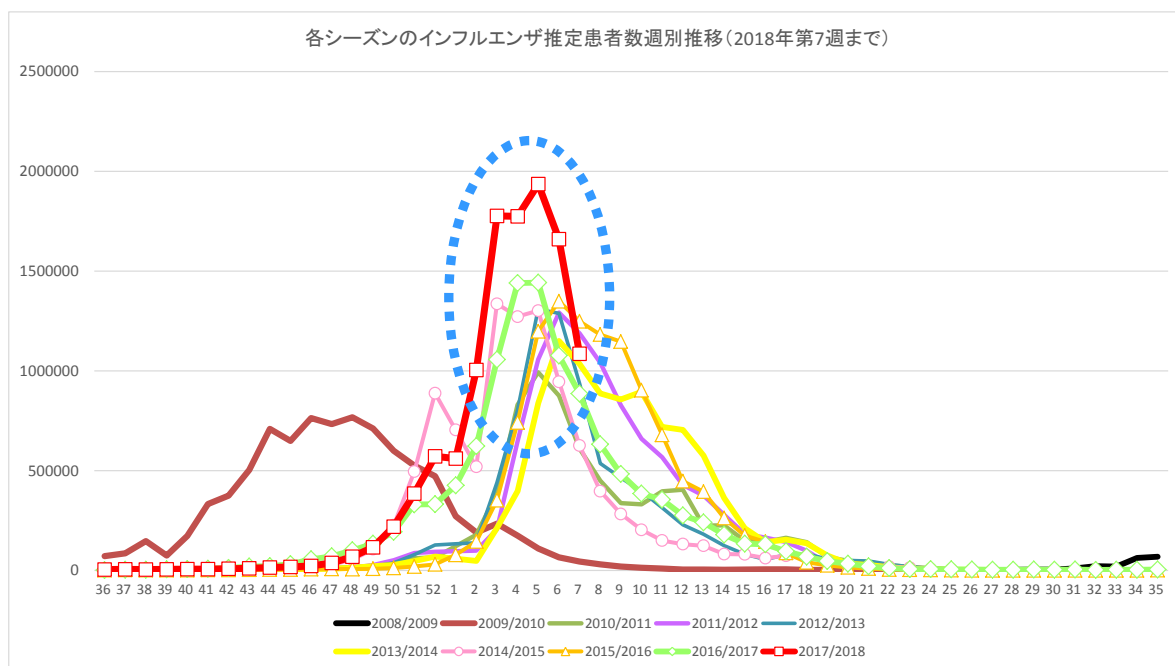


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第7週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第7週の推定患者数= 1,085,765）

各都道府県別の第7週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると北海道、徳島県、高知県、富山県、三重県、大分県、岡山県の順となっていて、沖縄県を除く46都道府県で前週の値よりも減少がみられました。

2017年第36週から2018年第7週までの累積の推定患者数は1,1298,376であり、

2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は8.92%でした。年齢群別の累積罹患率は5～9歳（39.16%）、10～14歳（27.96%）、0～4歳（20.50%）、15～19歳（12.85%）、40～49歳（7.84%）、30～39歳（7.44%）、50～59歳（6.50%）、20～29歳（6.20%）、60～69歳（4.51%）、70歳以上（2.97%）の順となっており（図2）、全ての年齢群で週当たりの罹患率は前週の値よりも減少しました。

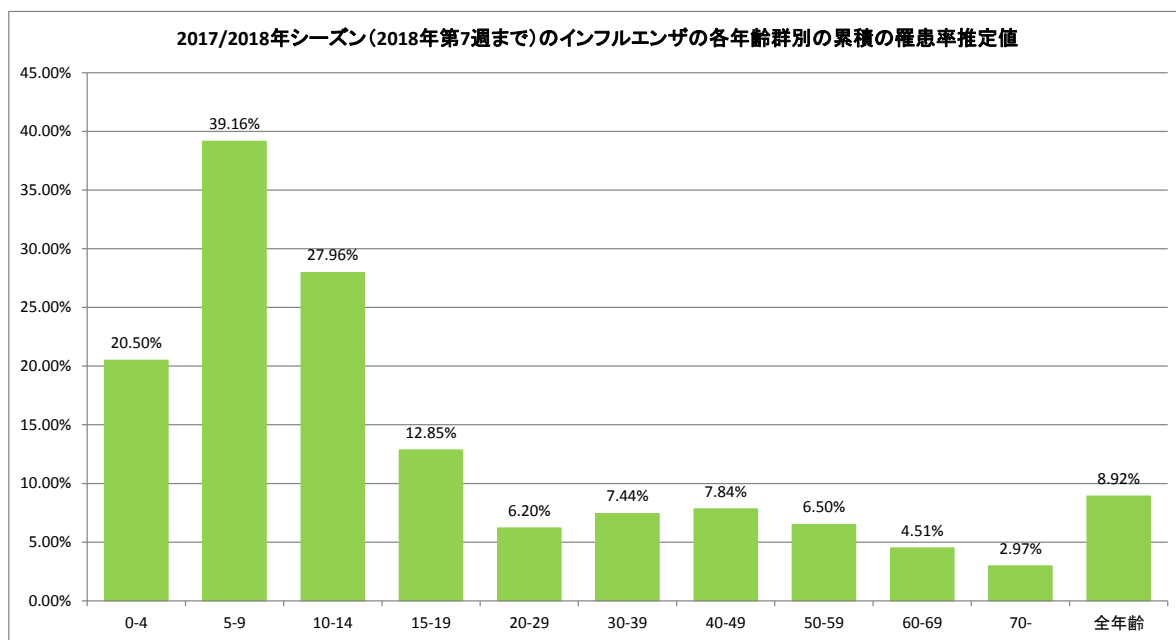


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2017年第36～2018年第7週、累積推定患者数= 11,298,376）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（3,528 検体解析）は、A/H1pdm 41.2%、B型 38.3%、A/H3（A 香港）亜型が 20.5%の順となっています。一方、年明けの2018年第2週以降に検出されたインフルエンザウイルス 966 検体の解析では B 型 55.4%、A/H3（A 香港）亜型 25.9%、A/H1pdm 18.7%と B 型（大半が山形系統）が多数を占めています（図3）。

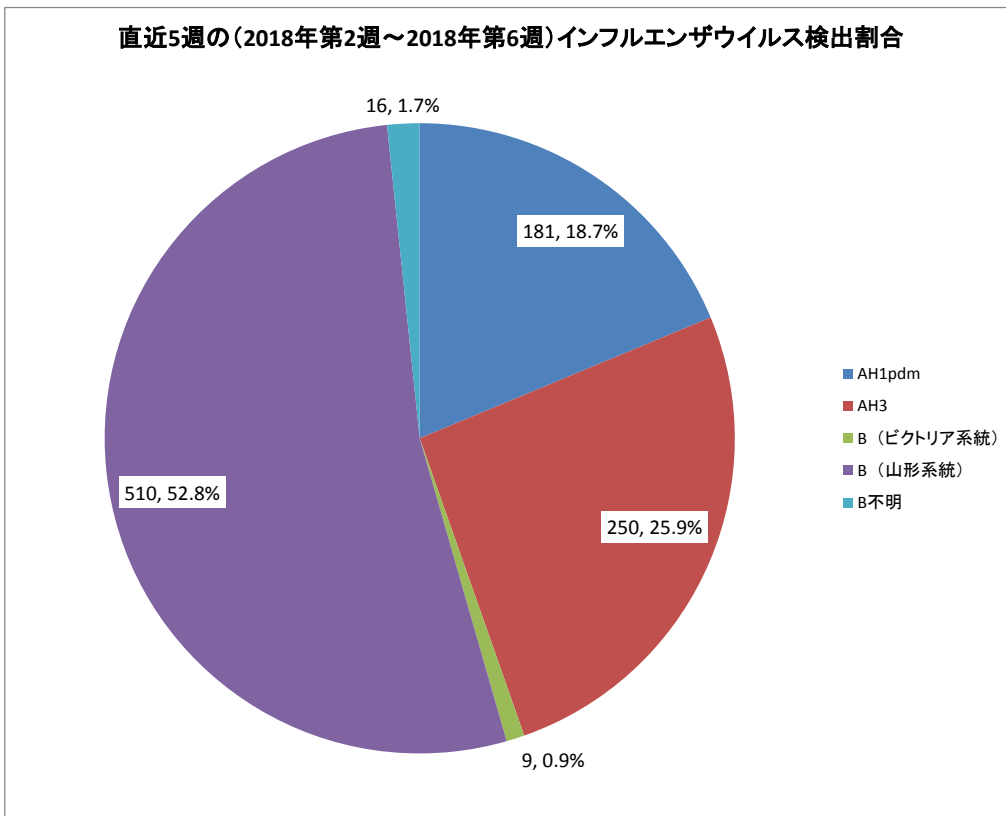


図 3. 直近 5 週間のインフルエンザウイルスの検出割合 (2018 年第 2 以降、検出数 966)

第 7 週のインフルエンザの患者数は約 109 万人と前週よりも大幅に減少しました。今週 (第 8 週) の患者数は 100 万人を下回ることが予想され、インフルエンザの流行は漸く一段落しつつあると思われます。一方、現在の B 型インフルエンザを中心とした流行は継続しており、まだしばらくはインフルエンザの流行に注意が必要です。